

令和2年度 第1回碧南市国民健康保険運営協議会 会議録 (要旨)

1 日時 令和2年8月21日(金) 午後1時27分から午後2時22分まで

2 場所 碧南市役所 2階 会議室1

3 出席者

(1) 出席者(15名)

榊原由太郎、高松 好美、鏑本 幹夫、小澤 只嗣、杉浦 三雄、
生田 譲、長田 和久、茂木 仁志、齋藤 英延、片伯部裕樹、
三島 孝二、河原 厚司、土川 俊幸、須田 翠子、杉浦晴太郎
欠席者 なし

(2) 事務局職員

健康推進部長 山本 政裕、
国保年金課長 池田 竜也、課長補佐(国保係長) 柴田 一雄、
国保係主事 齋藤 雅人

4 傍聴者 0人

5 議題

- (1) 令和元年度碧南市国民健康保険の事業報告について
- (2) 令和元年度碧南市国民健康保険特別会計決算について
- (3) 新型コロナウイルス感染症関連について

議題(1)について、事務局が説明。

特に質疑、意見なし

議題(2)について、事務局が説明。

<主な意見・質疑>

【A委員】

1点目、特別会計が2億760万円くらいの赤字だと、これまでの経緯で、経営的な見地で行くとトレンドとして悪くなっているのか。

2点目、ジェネリックについて、効果測定をした方がいいのではないかと。ジェネリックを使うことによって、「これだけ国民健康保険の中に貢献している」「薬代が安くなっている」ということを言っていた方が励みになると思う。

【事務局】

1点目、医療費の総額が安くなることはあっても、一人当たりの医療費は上がり続けています。それに見合うだけの保険税が必要だが、それだけ保険税がある意味上げられてい

ない。基金を活用し、運営していくが、今後、少なくなっていく場合の検討が必要。委員のみなさんの意見もお伺いしたいと考えている。

2点目、実際ジェネリックに変えられたらどのくらい効果があったかということか。

【A委員】

普通の薬価とジェネリックを使ったその差額という意味で伺っている。

【事務局】

一定の条件以上の方に対して、ジェネリックにするとこれくらい効果があるという案内をしている。数値は把握していない。

議題(3)について、事務局が説明。

特に質疑、意見なし